

トピックス

WCRR2016が開催されました

平成28年5月29日から6月2日にかけて、イタリア・ミラノ近郊の展示会場、フィエラ・ミラノにおいて第11回世界鉄道研究会議(WCRR2016)が開催されました。WCRR(World Congress on Railway Research)は、国際鉄道連合およびフランス国鉄、ドイツ鉄道、イタリア国鉄、英国鉄道安全標準化機構、米国運輸技術センター、公益財団法人鉄道総合技術研究所(以下、鉄道総研)からなる組織委員会によって運営されている国際会議です。

第11回目となる本会議では、世界38か国から約1000人(日本から約100人)が参加し、「Research and Innovation from Today Towards 2050」—今日から2050年までの研究とイノベーション」のテーマのもと、3つのプレナリーセッションと、8つの一般セッションが構成され、一般セッションでは口頭発表312件(日本から66件)、ポスター140件(日本から26件)の研究発表が行われました。今回の会議の特徴としては、これまでの会議においてはなかった新しい試みとして、e-Poster(電子ポスター)、POC(Proof Of Concept, 成果のデモンなどによる実証展示)が行われました。

5月30日オープニングセレモニーに続けて開催されたプレナリーセッション1では、「CUSTOMERS,

MARKET & COMPETITION”顧客、市場、そして競争」と題して議論が行われ、日本からは東日本旅客鉄道株式会社(以下JR東日本)の小縣方樹副会長が登壇されました。続いて5月31日に行われたプレナリーセッション2では、「TECHNOLOGY & INNOVATION”テクノロジーとイノベーション」と題して議論が行われ、鉄道総研の熊谷則道理事長が登壇しました。会議と並行して行われた展示会は、29の企業・団体が参加し、日本からは鉄道総研によるJRグループブースのほか、JR東日本と株式会社日立製作所からの出展がありました。また、優秀な発表に対して与えられる論文賞は、口頭発表8分野、ポスター発表、POCのそれぞれに対して授与されたほか、30歳未満の研究者1名に対して、若手研究者賞も授与されました。日本からは、「Operations and safety」—オペレーションと安全」分野において、東海旅客鉄道株式会社(以下JR東海)安全対策部の田邊義方氏によるJR東海の睡眠自己管理に関する取り組みを述べた論文が論文賞を受賞しました。

次回のWCRRは、3年後の2019年10月末に東京で開催されることが決まっており、閉会式では、鉄道総研の奥村文直理事がWCRR組織委員会の委員長をイタリア国鉄のマルコ・カボシュウティ氏から引き継ぎました。



鉄道総研熊谷理事長が登壇したプレナリーセッション2の様子

左から、鉄道総研熊谷理事長、カルロ・マリア・ボルギーニ氏(Shift2Rail事務局長)、ヨーゼフ・ドッペルバウアー氏(欧州鉄道庁長官)、アンソン・ジャック氏(バーミンガム大学教授)